

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

青森県

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。※アドバイザーは計上しないでください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	高齢福祉保険課		1 ◎				1	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		
モ デ ル 事 業	高齢福祉保険課		1 ◎				1	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間等の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課、保健所 その他 			事業内容について積極的に情報提供し、効果的な連携体制を検討する。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 			同上
その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域リハビリテーション広域支援センター 職能団体 その他 	研修会に県理学療法士会、県作業療法士会等の職能団体から参加してもらい、モデル事業について情報提供した。		同上

③第6期介護保険事業支援計画
第6期介護保険事業支援計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

市町村における介護予防の取組を推進するための具体的施策として、ロコモティブトレーニングをツールとした介護予防の取組の推進、市町村へのリハビリテーション専門職の派遣調整の実施、介護予防のための高齢者の「つどいの場」づくりの推進 等を記載する。

2. 市町村支援の実施状況

①モデル市町村への支援

モデル事業で実施した内容についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	実施内容	今後の課題	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断、戦略策定の支援	モデル市町村から地域の社会資源の実情と通いの場の展開方法の案を説明し、出席者が意見交換を行った。		・モデル市町村を対象とした戦略策定会議	◎	今年度から継続して実施する市町村に対してはどのような支援が必要なのか検討する必要がある。
研修会、現地支援	<ul style="list-style-type: none"> 研修会では、県内で介護予防の活動をしている地域の団体からの事例発表、広域アドバイザーの取組についての講演等を行った。 現地支援では、広域アドバイザーから地域の住民への動機付けを行った。 	住民主体の通いの場づくりに消極的な市町村に対する啓発が必要	・研修会、現地支援の実施 モデル市町村以外の市町村にも情報提供する。	○	同上
その他					

②モデル市町村以外も含めた管内全市町村への支援

②-1 研修会の開催状況

平成26年度中に行った（実施予定も含む）市町村介護予防担当者向け研修会についてご記入ください。

実施日	研修会名称	対象者	参加市町村数
3月20日	介護予防従事者研修会	市町村介護予防事業担当者、地域包括支援センター職員等	未定

②-2 管内全市町村への支援内容

平成26年度中に市町村介護予防担当者に対して行った（実施予定も含む）実施内容（実施項目、事業名等）についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	実施内容	今後の課題	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
			ロコモティブトレーニングを活用した介護予防事業の推進	◎	

3. モデル事業を行った成果・感想

モデル事業を行った成果・感想について自由にご記入ください。

行政から住民へお願いするのではなく、住民のやる気を引き出すという手法の重要性について担当者が認識し、考え方が変化したことが大きな成果であったと思う。また、行政の熱意がなければ通いの場の立ち上げ・拡充は難しいと感じたが、逆に、行政がやる気になれば、後は住民の力を信じることで通いの場はできるのだと感じた。今回のモデル事業を実施して実際に通いの場を立ち上げることができたので、他の市町村担当者のやる気につながることを期待したい。

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

岩手県

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。※アドバイザーは計上しないでください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	長寿社会課		1 ◎			1	2	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		
モ デ ル 事 業	長寿社会課		1 ◎			1	1	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間等の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課、保健所 その他 			事業内容について、積極的に情報提供し、効果的な連携体制を検討する。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	研修会に県理学療法士会、県関係団体(いきいき岩手支援財団、いわてリハビリテーションセンター)が参加し、モデル事業について情報提供した。		同上
その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域リハビリテーション広域支援センター 職能団体 その他 	研修会に県理学療法士会、県作業療法士会等の職能団体が参加し、モデル事業について情報提供した。		同上

③第6期介護保険事業支援計画
第6期介護保険事業支援計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

高齢者が要介護状態等となることの予防又は要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止のため、住民自身が運営する体操の集いや、リハビリテーション専門職を活かした介護予防の取組を支援するとともに、医療と介護が連携した地域リハビリテーション体制の構築を推進します。等を記載する。

2. 市町村支援の実施状況

①モデル市町村への支援

モデル事業で実施した内容についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	実施内容	今後の課題	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断、戦略策定の支援	モデル市町村から、地域の社会資源の実情と通いの場の展開方法を説明、意見交換を行った。	県担当者が事業を十分理解し、通いの場づくりの必要性を十分語るための知識の取得、経験の積み重ね	・H27モデル事業実施市町村への戦略策定会議の開催、他市町村への情報提供	◎	H26モデル事業実施市への継続支援のあり方、活用の仕方の検討
研修会、現地支援	①研修会では、市町村職員向けに、モデル事業実施市の実情の確認と広域アドバイザーの取組事例の発表を説明 ②介護予防市町村支援委員会で、委員向けに広域アドバイザーから事業の必要性を説明 ③現地支援では、広域アドバイザーから地域住民への動機付けを行った。	住民主体の通いの場づくりに消極的な市町村への啓発（マンパワー不足による）	・H26モデル事業実施市の成果発表会の開催、他市町村への情報提供 ・H27モデル事業実施市町村への現地支援、他市町村への情報提供	○	同上
その他					

②モデル市町村以外も含めた管内全市町村への支援

②-1 研修会の開催状況

平成26年度中に行った（実施予定も含む）市町村介護予防担当者向け研修会についてご記入ください。

実施日	研修会名称	対象者	参加市町村数
8月1日	地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業研修会	市町村介護予防事業担当者、地域包括支援センター職員等	16
11月10、11日	介護予防研修会	//	17
9月30～10月1日	介護予防研修会（運動機能の向上：基礎編）	//	7
12月17日	介護予防研修会（運動機能の向上：被災地開催編）	//	5

②-2 管内全市町村への支援内容

平成26年度中に市町村介護予防担当者に対して行った（実施予定も含む）実施内容（実施項目、事業名等）についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	実施内容	今後の課題	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題

3. モデル事業を行った成果・感想

モデル事業を行った成果・感想について自由にご記入ください。

住民主体の通いの場づくりについては、これまでの市町村主導での事業実施が大勢であったことから、モデル事業実施市とともに、事業の進め方等のイメージが沸かず半信半疑であったが、地域説明会での広域アドバイザーが示した体操効果を示す動画は効果的で、参加者からも驚きの声。見事に、住民の方から「やりたい」と手が挙がり、県担当者としても大変感慨深いものがありました。また、住民のやる気はもとより、行政側の熱意があれば、通いの場の立ち上げに繋がると実感でき、次年度以降の展開に自信を持って取り組むことができます。他の市町村担当者にもこの成果を伝え、取組を広げていきたいと思っています。

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

宮城県

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。※アドバイザーは計上しないでください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	保健福祉部 長寿社会政策課		1 ◎				1	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		
モ デ ル 事 業	保健福祉部 長寿社会政策課		1 ◎				1	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間等の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課、保健所 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 部内関係課、保健福祉事務所・地域事務所、リハビリテーション支援センターに研修会への参加呼びかけ、出席 モデル市を所管する保健福祉事務所に、打合せ・現地支援への参加呼びかけ、出席 	<ul style="list-style-type: none"> これまで「介護予防事業」としては、担当課以外は役割を担っていなかった。 地域リハビリテーション関連事業として各事務所が市町村支援してきたノウハウを、介護予防事業に活かすための役割分担等が不明確。また、対象外の仙台市への支援をどうするのか要検討 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア体制構築推進関連の取組の一つとして、「介護予防」として関係課、関係事務所等とどのように連携していくのか検討する。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業に関して必要に応じて協力いただいているが、全般的な介護予防事業に関する情報提供、意見交換の場がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 打合せ会等を行い、情報共有を図る。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域リハビリテーション広域支援センター 職能団体 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 大川弥生氏：県の生活不活発病予防アドバイザーとして、白石市における取組に協力 東北大学院医学系研究科：研修会の講師、県の介護予防事業効果分析モデル事業への協力 各県士会に研修会への参加呼びかけ、出席。 県PT・OT士会から資料配付 県PT士会：研修会の講師、名取ご当地体操の作成に協力 	//	<ul style="list-style-type: none"> 各者との連携内容について検討し、説明会等を行い、情報共有を図る。

③第6期介護保険事業支援計画

第6期介護保険事業支援計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

「第6期みやぎ高齢者元気プラン」（宮城県高齢者福祉計画・介護保険事業支援計画）の各論「自分らしい生き方の実現」のうち、「介護予防の推進」の中に、「介護予防の効果的な推進」として、高齢者の健康維持のための取組、介護予防サービスの質の向上、介護予防に取り組みやすい環境づくり、被災高齢者の介護予防、「生活支援・介護予防サービスの開発支援」として、生活支援サービスの開発支援を施策展開の方向を記載している。

2. 市町村支援の実施状況

①モデル市町村への支援

モデル事業で実施した内容についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	実施内容	今後の課題	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断、戦略策定の支援	<ul style="list-style-type: none"> 研修会（H26.6） 全市町村を対象として「介護予防に関する事業評価と地域診断」研修を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 各市が情報整理する前に、密着アドバイザー、モデル市、保健福祉事務所との情報共有（打合せ会）をしていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業説明会（H27.5） 参加意向のある市町村を対象に実施 打合せ会（H27.6） モデルに決定した市町村を対象に実施 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 関係課、保健福祉事務所等への事前説明が必要か？
研修会、現地支援	<ul style="list-style-type: none"> 研修会（H26.8） （午前）全市町村 （午後）モデル市 現地支援（H26.11） （午前）名取市 （午後）白石市 	<ul style="list-style-type: none"> モデル市毎の戦略策定に繋げるためには、モデル市のみを対象とした研修会にかける時間をもっととるべきだった。 通いの場が立ち上げっていないうちに現地支援を実施することになってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会（H27.7） モデル市町村／全市町村 現地支援（H27.11） 	○	<ul style="list-style-type: none"> （研修会） ・参加市町村数が増えることで、全市町村を対象とした講義の時間がとれないのでは？内容の検討が必要（現地支援） ・継続2市への支援をどうするか？ ・市町村間の移動時間がかかる場合にどうするか？
その他	<ul style="list-style-type: none"> 打合せ会（H26.10） 密着アドバイザー、モデル市、所管事務所と情報共有を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 直接、関係者間で意見交換などを行う機会が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換会（H27.10） 報告会（H28.3） 	△	<ul style="list-style-type: none"> 全市町村に対しての報告会として実施するか？

②モデル市町村以外も含めた管内全市町村への支援

②-1 研修会の開催状況

平成26年度中に行った（実施予定も含む）市町村介護予防担当者向け研修会についてご記入ください。

実施日	研修会名称	対象者	参加市町村数
H26.6.13	平成26年度第1回宮城県介護予防研修会（介護予防に関する事業評価と地域診断）	市町村介護予防事業担当者、地域包括支援センター職員	23
H26.8.25	平成26年度第2回宮城県介護予防研修会（モデル事業戦略策定支援）	市町村介護予防事業担当者、地域包括支援センター職員	28
H26.11.28	平成26年度第3回宮城県介護予防研修会（リハビリテーション専門職の役割について）	市町村介護予防事業担当者、地域包括支援センター職員	20

②-2 管内全市町村への支援内容

平成26年度中に市町村介護予防担当者に対して行った（実施予定も含む）実施内容（実施項目、事業名等）についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降	
	実施内容	今後の課題	今後の実施予定	優先度 実施する上での課題
			リハビリテーション専門職等を活用した自立支援に資する取組推進のための連携を図る。 （研修会、勉強会などの実施）	◎ 各リハ職団体、保健福祉事務所等との具体的手法の検討、決定が必要

3. モデル事業を行った成果・感想

モデル事業を行った成果・感想について自由にご記入ください。

<ul style="list-style-type: none"> 当該事業に取り組むに当たり、全般的に準備不足、連携不足だった。 モデル市、密着アド、所管事務所との打合せ会（直接集まった意見交換、情報交換など）の機会が少なかった。戦略策定や現地支援について県のサポートが不十分だった。 広域アドの取組は、モデル事業に参加していない市町村にとっても参考になるものだが、今年度実施した研修会だけでは伝え切れていない。来年度の研修内容について要検討 今年度のモデル事業の成果について、データで表すことが難しい。 モデル市の今年度の取組は他市町村の参考になるものだと思うが、その成果を数値等で表せない。他市町村への伝達研修（報告会など）について工夫する必要がある。 これまで介護予防としてはリハ職との繋がりがなかったが、当該事業を通して地域リハ等で各保健福祉事務所・地域事務所が市町村支援に取り組んでいることを知った。 また、各士会との協力も不可欠 介護予防に限らず各事務所が市町村支援として取り組み蓄積したノウハウを活かしながら、介護予防に関してはどのように事業を展開していくのか検討が必要 リハ職の活用に関し、関係機関と連携した市町村支援について、具体的な手法の検討が必要

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

秋田県

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。※アドバイザーは計上しないでください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	健康福祉部長寿社会課		1 ◎				1	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		
モ デ ル 事 業	健康福祉部長寿社会課		1 ◎				1	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間等の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課、保健所 その他 	なし	なし	
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域リハビリテーション広域支援センター 職能団体 その他 			

③第6期介護保険事業支援計画
第6期介護保険事業支援計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

「介護予防事業」これまでの介護予防普及啓発の他、元気な高齢者もそうでない方も地域で生きがい・役割をもって生活できるような通いの場を市町村が整備できるよう支援します。

2. 市町村支援の実施状況

①モデル市町村への支援

モデル事業で実施した内容についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	実施内容	今後の課題	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断、戦略策定の支援	合同会議終了後の、5月26日と6月16日に打合せを行い、進め方を決定した。	なし			
研修会、現地支援	7月9日研修会を開催し、良好な関係にあった2地区に動機付けを行った。 12月16日に現地支援を開催し、立ち上がった通いの場を視察した。	なし			
その他	随時電話や電子メールにて報告、相談を行った。	なし			

②モデル市町村以外も含めた管内全市町村への支援

②-1 研修会の開催状況

平成26年度中に行った（実施予定も含む）市町村介護予防担当者向け研修会についてご記入ください。

実施日	研修会名称	対象者	参加市町村数
H26.9.30	平成26年度地域包括ケアシステム構築セミナー	各市町村、地域包括支援センター、社会福祉協議会、県地域振興局職員等	23

②-2 管内全市町村への支援内容

平成26年度中に市町村介護予防担当者に対して行った（実施予定も含む）実施内容（実施項目、事業名等）についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	実施内容	今後の課題	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
	全県の市町村を対象に介護予防推進支援モデル事業の紹介	内容を詳しく聞いて実施しようという市町村がなかった	引き続き、住民主体の通いの場の立ち上げ方法について紹介する		

3. モデル事業を行った成果・感想

モデル事業を行った成果・感想について自由にご記入ください。

<ul style="list-style-type: none"> 事業開始時は、事業イメージが図でしか示されず、不安があった。 事業の内容としては、広域アドバイザーが予想した、おもりについて問題になることやご当地体操の活用、既存の集まりを使うことの難しさ等の問題や、住民の力を信じて待つと立ち上がる、といった内容がそのまま現実となったため、非常に有意義であった。

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

山形県

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。※アドバイザーは計上しないでください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	健康長寿推進課		6 ◎				6	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		
モ デ ル 事 業	健康長寿推進課		3 ◎				3	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間等の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課、保健所 その他 	県内保健所への協力要請	研修会の参加に協力は留まる。	事業報告会を開催し参加いただく。 次年度の協力について検討する。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	保健師	研修会の参加に協力は留まる。	事業報告会を開催し参加いただく。 次年度の協力について検討する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域リハビリテーション広域支援センター 職能団体 その他 	山形県社会福祉協議会への協力要請	市、各地区社会福祉協議会への研修会の周知に留まる。	事業報告会を開催し参加いただく。 次年度の協力について検討する。

③第6期介護保険事業支援計画
第6期介護保険事業支援計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

介護予防事業や健康づくりは、行政から押し付けるのではなく、高齢者が自ら進んで参加したくなるような工夫をする必要があります。高齢者が積極的に参加すれば、継続性に繋がり介護予防事業や健康づくりの効果も必然的に高まります。そのため、県及び市町村は、日常生活の中で気軽に参加できる住民主体の通いの場づくりを推進します。

2. 市町村支援の実施状況

①モデル市町村への支援

モデル事業で実施した内容についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	実施内容	今後の課題	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断、戦略策定の支援	事業実施前に事前ヒアリングを実施。	当初、事業の趣旨を理解することが出来ない市町村も多く、地域診断、戦略策定がおろそかになってしまう市町村があった。	平成27年度においても国事業に取組むこととし、日常圏域ニーズ調査などを活用した地域診断、戦略策定を促していく。	○	特になし
研修会、現地支援	①平成26年7月24日モデル市町村を集めた研修会を開催。 ②平成27年3月16日県内市町村、地域包括、市町村社会福祉協議会を参集したモデル事業事業報告会を開催。 ③モデル5市町村すべてに一回以上の現地たちあげ支援を実施。	県庁だけの対応では限界がある。	○キックオフ的な研修会については、全県的に集めて行う形とはせず、取組む市町村へ直接現地支援という形で支援していく。平成26年度のモデル市町村担当者の協力を得て現地支援を実施する。 ○年度後半に、事業報告会を行う。	◎	○取組む市町村が増えることが予想されるため、県庁だけの対応には限界がある。関係部署・機関の理解を得て事業推進していく。
その他					

②モデル市町村以外も含めた管内全市町村への支援

②-1 研修会の開催状況

平成26年度中に行った（実施予定も含む）市町村介護予防担当者向け研修会についてご記入ください。

実施日	研修会名称	対象者	参加市町村数
3月16日	平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業事業報告会	市町村、地域包括、市町村・地区社会福祉協議会	35

②-2 管内全市町村への支援内容

平成26年度中に市町村介護予防担当者に対して行った（実施予定も含む）実施内容（実施項目、事業名等）についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	実施内容	今後の課題	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題

3. モデル事業を行った成果・感想

モデル事業を行った成果・感想について自由にご記入ください。

<p>○モデル市町村の担当者にとっては、これまでの住民主体の通いの場という「高齢者サロン」をイメージしており、月1回の活動さえも難しい状況のもと、毎週開催に懐疑的な市町村ばかりであった。</p> <p>○7月に開催した研修会で広域アドバイザーの講演を聞いてから、市町村担当者の理解が深まり、各市町村での事業が進んだ。</p> <p>○一度、通いの場が創出されると、近隣でもうわさになり、「はじめてみたい」という声が出てきた。</p> <p>○評価をきっちりと行うことが、高齢者たちのやる気を引き出すことが、継続的な「通いの場」となり得るため、今後は、その点を注意しながら事業推進していきたい。</p>
--

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

福島県

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。※アドバイザーは計上しないでください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	高齢福祉課		2 ◎	1			3	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		
モ デ ル 事 業	高齢福祉課		1 ◎				1	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間等の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課、保健所 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 各保健福祉事務所に事業内容を説明し、モデル市町を所管する保福には協力を依頼した。研修会や現地支援、打合せの際に出席を依頼し、モデル市町の日常的な相談に対応してもらった。(1か所はモデル市町以外の支援も行った。) 	<ul style="list-style-type: none"> 本庁(高齢福祉課)と保健福祉事務所の役割分担ができていない。 保健福祉事務所によって、モデル市町含む管内市町村への支援内容に差がある。 介護予防事業についてはこれまでも高齢福祉課以外は担当しておらず、モデル事業についても他課との連携はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 本庁(高齢福祉課)と保健福祉事務所の役割分担を明確にしておく。 先行する保健福祉事務所の取組を他にも情報提供し、参考にしてもらう。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 本庁(高齢福祉課)は事務職、保健福祉事務所は保健師が介護予防事業を担当。リハ職(地域リハ広域支援センター等)にもモデル事業の取組に協力してもらっている。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域リハビリテーション広域支援センター 職能団体 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 県PT、OT、ST会に都道府県研修会の案内を行い、モデル事業について周知するとともに、現地支援の際に協力してもらった。 リハビリ専門職以外の職能団体には、県介護予防市町村支援委員会で事業内容を説明。 	<ul style="list-style-type: none"> 現地支援の際に、リハ職に参加してもらった場合は、地域ケア会議等活動支援事業等の他事業で対応(旅費や謝礼)。県事業で対応する際の予算が明確になっていなかった。 市町村で身近に依頼できるリハ職がない場合の対応。(今年度は地域リハ広域支援センターに依頼し、派遣してもらった。) 	<ul style="list-style-type: none"> リハ職への謝礼等、市町村で予算措置していない場合の対応について検討する。(介護予防市町村支援事業で予算措置済み) リハ職の派遣を依頼する際の窓口を3士会協力のもと整理したので、その周知を図り、円滑にリハ職の協力が得られるようにする。併せて、所属(病院や施設)に対し、周知依頼する。

③第6期介護保険事業支援計画

第6期介護保険事業支援計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

県は、市町村の取組を推進していくため、市町村及び医師会等の関係機関を対象とした研修会の開催や推進事業の実施について検討します。市町村が新しい総合事業に円滑に移行できるよう、先進事例の提供や、保健福祉事務所とともに新制度に関する助言を行うなどの支援をします。福島県介護予防市町村支援委員会による市町村事業の分析・評価を行い、その結果を引き続き市町村に還元します。

2. 市町村支援の実施状況

①モデル市町村への支援

モデル事業で実施した内容についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	実施内容	今後の課題	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断、戦略策定の支援	<ul style="list-style-type: none"> モデル市町村の地域診断、戦略策定においては、現地打合せ等に参加して検討するとともに、ワークシートの記載を促した。 全市町村を対象として「介護予防関連事業評価（平成25年度実施分）」を作成し、配布。 	<ul style="list-style-type: none"> 各市町村における地域診断において、有効な助言等ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も本事業に取組むこととし、日常圏域ニーズ調査や県介護予防市町村支援委員会で作成する事業評価等活用した地域診断、戦略策定を支援していく。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 県介護予防市町村支援委員会において、本事業の検討が必要か。
研修会、現地支援	<ul style="list-style-type: none"> ①8月19日に研修会（全市町村）と担当者会議（モデル市町村）を開催。 ②11月25、26日に広域アドバイザーによる現地支援として、住民説明会を実施。モデル市町村全部と、一部モデル以外の市町村にも参加してもらった。 ※福島市の介護予防事業研修会（地域づくりによる介護予防がテーマ）の際に、他の市町村にも参加してもらい、本事業の周知を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会は全市町村を対象としたが、全体の4割しか参加がなかった。研修会へ参加しない市町村への働きかけが課題。 5つのモデル市町村のすべてに対しては広域アドバイザーによる現地支援ができなかった。すべてのモデル市町村に対し、現地での技術指導ができるよう日程及び予算の確保が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度と同様に研修会は全市町村対象とし、担当者会議も同日に開催し、モデル市町村の戦略策定を支援したい。 現地支援については、できるだけモデル市町村全部が対象になるように日程調整等を行いたい。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> （研修会） 市町村において取組に差があり、研修会のテーマをどうするか。 （現地支援） 広域アドバイザーの日程確保と、市町村間の移動時間がかかる場合の対応。
その他	<ul style="list-style-type: none"> モデル市町村の取組に合わせて、密着アドバイザーや保健福祉事務所とともに現地打合せを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 打合せへの出席要請のないモデル市町村への対応ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、現地打合せを実施する。 年度末に事業報告会を開催し、モデル市町村の取組を他市町村に情報提供したい。 	○	

②モデル市町村以外も含めた管内全市町村への支援

②-1 研修会の開催状況

平成26年度中に行った（実施予定も含む）市町村介護予防担当者向け研修会についてご記入ください。

実施日	研修会名称	対象者	参加市町村数
H27.1.30	平成26年度地域包括ケアシステム構築トップセミナー	各市町村、地域包括支援センター、医師会、歯科医師会等	46

②-2 管内全市町村への支援内容

平成26年度中に市町村介護予防担当者に対して行った（実施予定も含む）実施内容（実施項目、事業名等）についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	実施内容	今後の課題	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
介護予防事業市町村支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の市町村担当者会議で、モデル事業の概要を説明。 介護予防市町村支援委員会において、市町村の介護予防事業について分析・評価を行い、「介護予防関連事業評価」としてフィードバック。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当者会議については年度当初であったため、実際にモデル市町でどう取り組んでいるかの情報提供ができなかった。 介護予防事業実施状況調査（厚生労働省）をもとに事業評価しているため、当該年度の実施状況の評価ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に市町村担当者会議を開催し、後半に成果報告会を開催して、モデル市町の取組を周知したい。 市町村への情報提供のあり方を検討したい。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 2回分の予算確保と、他事業における研修会・会議もあり日程確保ができるか。

3. モデル事業を行った成果・感想

モデル事業を行った成果・感想について自由にご記入ください。

<p>・5/30のアドバイザー合同会議を受けてようやく動き出したため、取組のスタートが遅れてしまった。結果として、モデル市町において、通いの場のモデル的立ち上げはできたが、評価（体力測定等のデータ）までは到達できなかった。各保健福祉事務所や職能団体（リハビリ専門職）への情報提供も遅くなってしまった。</p> <p>・アドバイザーによる現地支援の内容は、市町村だけでなく、県担当者にとっても大変勉強になるものであった。モデル市町村の取組から得た知見をもとに、管内全市町村の取組を支援しなければならないが、具体的な技術指導ができるまでには至っていない。その意味では、保健福祉事務所（保健師）との連携が必須であると感じた。</p> <p>・モデル市町村の取組を通じて、その圏域のリハビリ専門職との協力体制ができた。これからの介護予防事業を展開していく上で、リハビリ専門職の協力は不可欠であり、その土台づくりにつながったのではないかと思う。</p> <p>・リハビリ専門職以外の専門職（栄養士や歯科衛生士）との連携については不十分であり、本事業を含めて、これからの介護予防にどのように携わってもらうか検討が必要。</p>
